

様式 3

佐賀城本丸歴史館協議会議事録

- 1 開催した会議の名称 令和 4 年度佐賀城本丸歴史館協議会
- 2 開催日時 令和 5 年 3 月 8 日（水）14 時～15 時 40 分
- 3 開催場所 佐賀城本丸歴史館 会議室
- 4 出席者 委員：高野委員、粟屋委員、貞包委員、園田委員、西委員、  
中尾委員、瀬戸口委員、谷委員、古賀委員、  
宮原委員、何川委員  
佐賀城本丸ボランティア：高祖会長  
文化課：白濱参事  
事務局：七田館長、古賀統括副館長、古川副館長、  
竹下企画学芸課長、副島企画担当係長、  
藤井学芸担当係長、鈴木主任主査
- 5 議題 (1) 令和 4 年度事業実施状況について  
(2) 令和 5 年度の事業計画について  
(3) 令和 5 年度予算について  
(4) その他

6 会議録

会議の冒頭、七田館長から挨拶があった後、議事に入った。  
(事務局より配布資料に基づいたパワーポイントにより説明)

(委員)

電気代が上がったとのことだが、どのくらい上がったのか。

(事務局)

このところの電気代自体の値上がりや、冷暖房の使用状況等を受けて、  
見込ベースで例年比 5～6 割程度上がっている。

(委員)

江藤新平特別展のコンセプトはどのようなものか。

(事務局)

三権分立や近代的な司法、国家制度等、明治国家の根幹を作ったのが  
江藤新平であることを広く知ってもらおう。

(委員)

江藤新平展について。維新博はビジュアル関連の展示が充実していたが、今回は本物の史料展示を充実させてほしい。

(事務局)

佐賀に限らず全国各地から江藤新平に関する資料を借用して展示したいと考えている。

可能であれば、高知県内に現存する江藤の絶筆を借用したいと考えている。もし実現できれば、佐賀県内では初公開となる。

(委員)

西郷隆盛と西南戦争はすでに広く知られている。江藤新平の功績を知らせる良い機会であると思う。新たな成果に期待している。

(委員)

島義勇展について。展示品の中に、今回初公開となった妙見菩薩像があったが、展示ケースの関係で距離が遠かった。独立ケースを使って、近い距離で裏の方も見る事が出来ればさらに良かったと思う。

(委員)

外国人入館者数に関する資料があったが、集客に関して、コロナ禍以降の方向性はどのようなものかお聞きしたい。外国人、日本人、県内・外、いずれを増やしたいのか。

(事務局)

欲を言えば、外国人も日本人も増やしたいと考えている。4月から台湾発着のLCCが再開となる。県や市の観光セクションと連携のうえ、積極的に誘致をしていきたい。子ども向けのパンフレットを本年度作成するので、今後その外国語版を作ることも検討したい。来館者にとってわかりやすい、楽しめるものを提供したい。

(委員)

入館料が無料の施設であることは、エージェントには魅力的である。このメリットを活かし、クルーズ客等にPRすることも可能と思われる。物販等はどうか。手伝えることがあれば声をかけてほしい。

(事務局)

現状、市内でのお昼ごはんをセットにしたツアー商品の中に取り入れていただいていることが多い。当館のみで考えるのではなく、周辺地域も含めたさまざまな施設を利用していきたいと考えている。

(委員)

萩の明倫館にある施設では、グッズ販売コーナーと飲食施設が充実している。せっかく人が来ているのに、何も買わないのはもったいない。物販の充実について検討いただきたい。

(委員)

江藤新平は教科書では士族反乱で出て来る程度。本丸を訪れることが、子供たちにとって、その功績を知る機会になれば良いと思う。小学生向けのパンフレットは、書き込めるものや、授業で配布できるものがあれば良いと思う。同様に島義勇も、教科書ではあまり出てこない。川副町では佐野常民について学習する機会が多い。授業の内容を本丸につなげたい。

(事務局)

江藤新平の功績等を知る機会については当館だけにとどまらず、制作した映像等を学校の授業等でも使ってもらえるよう、佐賀市とも協力していきたい。

(委員)

今年の10月、PTA九州ブロック佐賀大会が予定されており、九州一円から6,000人程度集まる予定となっている。本丸をPRしたい。

(事務局)

鹿児島県は楼門を復元した。熊本県は本丸御殿を復元したが、地震に見舞われた。長崎県は平戸で城泊に取り組んでいる。各県各様の取組がある中、佐賀では復元した本丸御殿を自由に見学できる。この強みを活かしてPRを行っていききたいので、ぜひ御協力をお願いしたい。

(委員)

駐車場は何台あるのか。資料等に掲載してほしい。

(事務局)

リーフレットにも記載があるが、無料で119台止められる。HPに掲載している他、電話等による問合せにも対応している。

(委員)

出前講座について。佐賀市の公民館は年間5館に絞るよう市公民館支援課から指導があったが、地元ということで、ぜひ赤松公民館にはこれまでどおり出前講座に来ていただきたい。

(委員)

江藤新平のPRについて。大河ドラマは厳しいかもしれないが、磯田道史さんのやっているNHKの番組等で取り上げてもらうのがよいかもしれない。

(委員)

司馬遼太郎も『歳月』で江藤新平を取り上げている。今回の佐賀戦争 150 年に照準を合わせた PR をお願いしたい。

(事務局)

県広報広聴課とも協力して働きかけを行っていききたい。

(委員)

施設貸出について。一般企業にはあまり貸し出していないようだが、何か理由があるのか。

(事務局)

当館ならではの特殊な事情がある。例えば、当館の歴史博物館としての性格上、会場を完全に閉め切った形でのイベント開催が出来ない。また、和の空間に合ったイベント、当館ならではのイベントであるかという点を考慮する必要がある。相談を持ち掛けられることはあるが、実際に開催するのは難しい場合が多い。また、会場自体の使い勝手も良くない。

また、コロナの影響で貸出申込の件数自体が減っているということがある。

(委員)

歴史館ゼミナールやイベント運営について。以前にも提案した、会員登録すれば自動的にメールが流れるシステムの導入については検討いただいているだろうか。歴ゼミは人気があり、自分は毎回来た際に次回分の予約を行っているのだが、たまたま来られなくなった場合は予約の機会を失うのではないかと危惧している。

(事務局)

以前、確かにそのようなシステムの導入につき御提案いただいた。その後、コロナ禍となり、多くの人に「来てください」とは言いにくい状況になった。

歴史館ゼミナールは現状、5～6割が次回予約分で埋まってしまう。残りの4～5割が HP や電話での予約で埋まる。今後は席数を増やす等対応を行っていききたい。

(委員)

収集資料データベースの公開について検討しているか。

(事務局)

将来的には視野に入ってくるかもしれないが、まずはデータベース自体の立ち上げに向けて慎重に取り組んでいきたい。研究者の皆様については、これまでどおり個別での問合せが可能である。

(委員)

今回もさまざまな意見が出たように、本丸は公共施設であり、多面的な性格

がある。様々な要望があり、その全てに答えることは難しいかもしれないが、  
ぜひ頑張ってください。